

# 『私を力づけてください』(ダニエル書 10章10節-11章1節) 2022.3.6.

<はじめに> 目の当たりにする出来事、入ってくる情報やうわさ、今後予想される状況と展開が、私たちをひどく落ち込ませ、活力も失せてしまう経験がありますか。本章のダニエルは正にそうでした。どうしたら再び立ち上がることができるでしょう。何がそのきっかけとなるでしょう。

## I そこに一人の人がいて(10: 1-9)

### ① キュロス王 第 3 年に(10:1)

キュロス王の第 3 年(BC536)に、本章～12 章の幻がダニエルに示されました。ダレイオス元年(BC538, 11:1)にペルシャはバビロンを倒し、イスラエルの民に帰還の布告が出され、第一陣が祖国エルサレムへ出立しました。しかしダニエルはそれに同行しませんでした。

### ② 喪に服すダニエル(10:2-4)

ダニエルは 3 週間喪に服します。エレミヤの 70 年の預言(9:2)が実現した喜びも束の間、「大きな戦」の幻に彼は打ちひしがれたのでしょうか。現実の厳しさを前に、彼は断食して祈りました。その後、彼はティグリス河畔で一人の人と出会います。

### ③ 亜麻布の衣を着た人(10:5-9)

それは異様な相貌(5-6)で、使徒ヨハネが見た方(黙示 1:12-17)とよく似ています。ダニエルの反応(8-9)も、天からの光と声に打たれたパウロ(使徒 9:3-4)や黙示録のヨハネ(1:17)と類似しています。これらから、この方が受肉前の御子なる神キリストだと分かります。

## II 人のように見える方(10:10-19)

### ① 特別に愛されている人よ(10:11, 19)

ダニエルはこの方の幻を見て、力を失い、打ち伏せられます。この方は彼に「理解せよ。立ち上がれ。恐れるな」と呼び掛けます。主が現れ、夢・幻を解き明かされるほど、彼は主に重用されていました。しかし、ここでは彼は力を失い、打ち伏せられています。

### ② 手が私に触れて(10:10, 16, 18)

そんなダニエルに、この方は語るとともに、個人的に何度も触れて力づけられます。主イエスも近づき求める人たちにそうされました。重荷を負い、疲れ、落ち込んでいる者のすぐ近くにおられ、親身に関わっている証しです。主に触れられたことがありますか。

### ③ ことばは聞かれている(10:12)

列強国の興亡と「大きな戦」(1)に主の民が翻弄される幻を示され、ダニエルは今までの祈りは無駄なのかと恐れ悩みます。主は「最初の日からあなたのことばは聞かれている」と言われます。また、彼のことばのために、主は立ち上がり、彼のもとに来られました。

## III 終わりの日に備えて(10:13-11:1)

### ① 天上と地上の戦(10:13)

13 節の描写は天でペルシア側につく天使が主の行く手を妨げていたと見られます。地上だけでなく天でも戦いは繰り広げられています(エペソ 6:12)。21 日間はダニエルが喪に服した期間と同じです。彼の祈りはミカエルを動かし、主が彼のもとに来れるようにしました。

### ② なぜ来たか(10:14-11:1)

主が来られたのは、来たる「終わりの日」を彼に告げ知らせるためです。それは救い主の到来とこの世の終焉です。消沈するダニエルに主は再び触れて力づけられます。かつてバビロンを打ち、今ペルシアと戦い、後にギリシャにも立ち向かうと知らされます。

### ③ 神の武具を取りなさい(エペソ 6:12-20)

眼前に起こる地上での出来事がすべてではありません。霊的な格闘も同時進行です。神に敵対する者の邪悪な攻撃に対抗するために、私たちに神は武具を与えてくださっています。主に力づけられて堅く立ち、すべての武具をつける時が来ています。

<おわりに> 突如、現実世界に世界中が戦争に巻き込まれる危惧を突き付けられています。それも主の幻に描かれたとおりです。恐れ、打ちひしがれるのではなく、「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました」(ヨハネ 16:33)と主は言われます。(H.M.)